



PARIS

国際地理 オリンピックに ようこそ！

第16回 科学地理オリンピック日本選手権 および
第18回 国際地理オリンピック日本代表選抜大会



国際地理オリンピック日本委員会公式サイト <https://japan-igeo.com/>

主催：国際地理オリンピック日本委員会

共催：公益社団法人 日本地理学会、公益社団法人 日本地球惑星科学連合、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

後援：文部科学省、国土交通省 国土地理院、日本地理教育学会、一般社団法人 人文地理学会、東北地理学会、地理科学学会、立命館地理学会、公益社団法人 東京地学協会、

一般社団法人 日本地図センター、一般財団法人 地図情報センター、日本地図学会、一般社団法人 地理情報システム学会、経済地理学会、地域地理科学会

協賛：帝国書院、二宮書店、古今書院、東京カートグラフィック、日経ナショナル ジオグラフィック社

国際地理オリンピックは 「地理力」立立う競う

地理オリンピックの歴史

地理オリンピックのルーツは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」がルーツです。地理学を学ぶ学生が国の垣根を越えて集まり、地理教育の未来を語り合いました。

1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会(プラハ:チェコ)で、オランダとポーランドの委員が「国際地理オリンピック」を提案しました。それ以降、16回の世界大会と3回の地域大会(アジア・太平洋地域)が行われました。そして2022年にはパリ(フランス)で第18回国際地理オリンピック iGeo Paris 2022が行われます。

国際地理オリンピック(世界大会)

第1回大会	1996年	ハーグ:オランダ
第2回大会	1998年	リスボン:ポルトガル
第3回大会	2000年	ソウル:韓国
第4回大会	2002年	ダーバン:南アフリカ共和国
第5回大会	2004年	グティニア:ポーランド
第6回大会	2006年	ブリズベン:オーストラリア
第7回大会	2008年	カルタゴ:チュニジア
第8回大会	2010年	タイペイ:台湾
第9回大会	2012年	ケルン:ドイツ
第10回大会	2013年	京都:日本
第11回大会	2014年	クラクフ:ポーランド
第12回大会	2015年	トヴェリ:ロシア
第13回大会	2016年	北京:中国
第14回大会	2017年	ベオグラード:セルビア
第15回大会	2018年	ケベック:カナダ
第16回大会	2019年	香港:中国
第17回大会	2020年	イスタンブール:トルコ(中止)
第17回大会	2021年	イスタンブール:トルコ(オンライン開催)

地域地理オリンピック(地域大会)

第1回大会	2007年	シンチュー:台湾
第2回大会	2009年	つくば:日本
第3回大会	2011年	メリダ:メキシコ

国際地理オリンピックは 3つの種目で競います。

◆記述式テスト(WRT)

さまざまな地理的な事象や地域の課題についての問い合わせに、地図や写真、統計などの資料を手掛かりに答えます。答えを導き出す過程も採点の対象になります。

◆マルチメディアテスト(MMT)

地図、写真、グラフなどを使って、そこで表されている地理的な事象や課題を読み取るテストで、解答は4つの選択肢から選ぶ客観式テストです。

◆フィールドワークエクセサイズ(FWE)

指定された地域のコースを歩きながら観察します。いくつかのチェックポイントをまわり、そこで説明を受けます。競技者は、観察した地理的な事象や地域のようす、観察できる景観についてメモを取りながら歩きます。そして、課題が出されて作業を行います。野外での観察と作業のあと、それらをもとにした問題に答えます。問題で求められていることを的確に表現しなければなりません。

「地理オリンピック」の共通言語は英語です。国際地理オリンピック(世界大会)ではすべて英語で出題され、英語での解答が必要です。(辞書の持ち込みは可)そのため、科学地理オリンピック日本選手権でも全体の2割の問題は英語による出題・解答です。英語による解答は、上手な文章でなくとも、論理的に正しく的確に表現することが大切です。非英語圏の国々からも、多くのメダル受賞者が出ています。

「地理オリンピック」の世界大会や地域大会では、さまざまな国の学生や先生と交流することも大切な目的の一つです。世界には、「地理」を理科の科目のひとつとして学んでいる国もあれば、地理と歴史が補完的な関係を持ち同じ先生が地理と歴史を教える国もあります。さまざまな国・地域から集う学生や先生と交流し、お互いの国の文化、教育などについてさまざまな相違点を共有し合うことは「地理オリンピック」ならではの国際理解です。

科学地理オリンピック
日本選手権 および
国際地理オリンピック
日本代表選抜大会

第1次選抜:マルチメディアテスト

上位およそ100位まで

第2次選抜:記述式テスト

金 銀 銅 メダル授与

成績優秀者を対象とする

第3次選抜:フィールドワークテスト

選抜試験の成績などを総合的に評価して日本代表候補を選考する。
うち4名を日本代表として国際地理オリンピックに派遣する。

国際地理オリンピック
iGeo

1. 記述式テスト
2. マルチメディアテスト
3. フィールドワークテスト

金 銀 銅 メダル授与

文化交流

◆募集要項

参加資格

2021年4月以降、大学およびそれに相当する教育機関で教育を受けていない19歳未満の者。ただし、世界大会の出場選手(4名)は、2022年6月末の時点で16歳～19歳の者から選出されます。

※高校・高専3年生および中等教育学校6年生は、第1次・第2次選抜試験までの国内大会には参加できますが、世界大会代表の選抜対象にはなりません。

選抜について

■第1次選抜 2021年12月11日(土)

会場：オンライン受験のため会場は設けません。

方法：マルチメディアテスト

スライドで提示する地図・図表・写真などをつかった問題に答える客観式テスト。問題の約2割は英語による出題で、英和辞書の持ち込みは紙媒体のみ可。解答時間は50分です。

選考：テストの成績上位約100名が第2次選抜に進むことができます。

受験上の注意：第1次選抜では、配信された問題を見て、オンラインで解答する方法をとります。

詳細は受験票に掲載します。スマートフォンでも受験可能ですが、問題の性質上、比較的画面の大きいタブレットもしくはPCを使って受験することをお勧めします。本委員会では機器の貸し出し等は致しません。なお、学校管理者の了承があり、担当の先生が責任を持って試験を実施していただける場合は、学校のコンピュータ教室等で受験することも可能です。担当の先生に問い合わせてください。

■第2次選抜 2022年2月20日(日)

会場：東京・大阪など全国9カ所程度を予定。

第2次選抜受験者の居住地を考慮して会場を指定します。なお、新型コロナ感染症の拡大状況等によっては、オンラインで実施する可能性があります。

方法：記述式テスト

地図・資料などの読み解を中心とした記述式テスト。問題の約2割は英語による出題で、辞書の持ち込みは紙媒体のみ可。解答時間は120分です。

選考：成績優秀者を表彰し、金、銀、銅メダルを授与します。

成績上位(約10名)が第3次選抜試験に進むことができます。(世界大会出場資格がない者は第3次選抜試験の対象になりません。)テストの結果は、後日、個人宛てに通知します。

■第3次選抜 2022年3月12日(土)～13日(日)

会場：近畿地方で実施予定。

なお、新型コロナ感染症の拡大状況等によっては、オンラインで実施する可能性があります。

内容：フィールドワークエクセサイズ・グループディスカッション

フィールドワークエクセサイズ：フィールドワークをもとにした筆記・作図などの試験。問題の約2割は英語による出題で、英和辞書の持ち込みは紙媒体のみ可。

グループディスカッション：地理に関連したテーマについて議論。

選考：選抜試験の成績などを総合的に判断し4名を日本代表として、2022年8月上旬(予定)にパリ(フランス)で開催予定の第18回国際地理オリンピックに派遣します。

WEB申し込み専用ホームページ

<https://contest-kyotsu.com>

問題について

過去の問題の一部は、国際地理オリンピック日本委員会のWebページ(<https://japan-igeo.com>)で閲覧することができます。

『地理オリンピックへの招待—公式ガイドブック・問題集—』(古今書院)も参考にしてください。

参加申込みについて

申込期間：2021年9月1日(水)

～11月15日(月)23:59まで

申込み方法：WEBエントリー

申込み専用ページ(<https://contest-kyotsu.com>)からWEBエントリーします。個人で申し込む「個人申込み」と学校ごとに団体で申し込む「学校申込み」があります。なお、いずれの場合も応募にあたっては保護者の同意が必要です。WEBエントリーでは保護者同意欄にチェックを忘れないようお願いします。

「個人申込み」

申込み専用ページから各自WEBエントリーしてください。

「学校申込み」

学校で一括して申し込むことができます。在籍する学校の担当の先生に相談してください。

〈担当する先生へのお願い〉

担当する先生がWEB申込専用ページ(<https://contest-kyotsu.com>)にアクセスし、参加者情報入力シートに記入の上、アップロードしてください。なお、学校のコンピュータ教室等でまとめて受験させる場合で、会場の使用許可が必要な場合は事務局にお申し出ください。

大会参加費等について

大会参加費は無料です。

ただし、コンピュータ等の機材や通信費等は受験者の負担となります。

国際地理オリンピックは大学の総合選抜型入試(AO入試)等の特別入試の対象です。

科学地理オリンピックで日本代表として選抜された者あるいは日本国内で行われる代表者選考等で一定の成績を収めた者を、特別入試の対象としている大学があります。



参加申し込みに関するお問い合わせは

科学オリンピック共通事務局へ

・TEL 042-646-6220 (平日12:00～13:00／17:00～19:00)

・E-mail info@contest-kyotsu.com

個人情報の取り扱いについて

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック日本代表選抜大会」は、国際地理オリンピック日本委員会(以下、「主催者」といいます)が主催しています。ご提供いただく個人情報は、次のように取り扱います。参加申込みされる方およびその保護者は、以下の内容について同意した上で申し込みください。

1.個人情報の収集目的について

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック日本代表選抜大会」においては、参加申込みに際して提供された参加申込者本人およびその保護者に関する個人情報ならびに「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック日本代表選抜大会」の各段階において記録・撮影される写真等は主催者が登録され、主催者が本事業の円滑な運営を遂行するために使用するとともに、本事業に関連する各種広報のために利用させていただきます。

2.個人情報の第三者への提供・預託について

ご提供いただいた個人情報は、「科学地理オリンピック日本選手権

兼国際地理オリンピック日本代表選抜大会」の実施運営のため、管理されます。提供するにあたっては、主催者は個人情報の適切な管理を実施いたします。

3.個人情報の業務委託について

主催者は「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック日本代表選抜大会」の申込受付業務および受験業務の一部を株式会社教育ソフウェアに業務委託しております。

4.個人情報のご提供の任意性について

個人情報のご提供は任意ではありませんが、必要な情報がご提供いただけない場合は、上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

5.個人情報の管理者について

ご提供いただいた個人情報は以下の者が適正に管理いたします。
国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

実行委員長 井田 仁康

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

事務局長 滝沢 由美子

6.個人情報に関するお問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報に關して、開示、および開示の結果、当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきますので、下記までご連絡ください。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

公益社団法人 日本国地理学会 事務局

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会 事務局

E-mail:geolympiad@ajg.or.jp



第18回 国際地理オリンピック iGeo Paris 2022

会期 2022年8月上旬(予定)

会場 パリ(フランス)およびその周辺



地理オリンピックガールズトーク



「地理オリンピック」って男だらけ？そんなことはありません。世界では女子選手が活躍しています。世界大会出場のOG2人と引率教員2人が、オンラインで国際地理オリンピック大会について語り合いました。

飯田 菜未さん(茨城県立土浦第一高等学校出身、東京大学在学中、2019年香港大会出場)

平賀 美沙さん(桜蔭高等学校出身、東京大学・同大学院卒、大手建設会社で土木技術者として活躍中、2013年京都大会出場)

井上 明日香先生(神奈川県立川崎高等学校教諭、2019年香港大会ほか引率教員)

林 靖子先生(獨協埼玉中学高等学校教諭、2018年ケベック大会引率教員)



林：はじめに、飯田さんと平賀さんが、国内選考を受験したきっかけを教えてくれますか？

飯田：もともと地理がすごく好きというわけではなかったのですが、高校の時の担任の先生が地理の先生で、その先生に薦められました。

平賀：高校の地理の授業が面白くて、それで自分でいろいろ勉強をしているうちに、この大会のことを知り受験しました。

林：どのような対策をして国内・世界大会に臨みましたか？

飯田：地理の問題集や日々の授業を大事にしていました。世界大会に向けては、強化研修会で多くを学びました。

平賀：私は理系ですが、地理の大学入試問題を解くほかに、図書室で地形図や都市地理学の本など、フィールドワークに活かせそうなものを借りて読んでいました。世界大会に向けては、英語の単語を自分でまとめたり、強化研修会でいただいた本を読んだりしていました。



林：世界大会では、他国の中学生とどのような交流がありましたか？

飯田：大会中、香港とルーマニアの選手と相部屋で、お土産の交換をしました。



平賀：私は台湾の選手と同室でした。お互いメダルを獲得して、抱き合って喜んだ思い出があります。シンガポールの選手とは、大会後、私がシンガポールに行った時に案内をしてくれて、彼女が日本に来た時は、私が案内をしました。

井上：今の生活で、地理オリンピックの経験が役立っていると思うことはありますか？

飯田：世界大会に行って、地理により興味を持ちましたし、自分の英語力をもっと磨かなきゃと思ったので、今、大学の授業で地理や英語に関するものを履修しています。江戸時代の名所を文献から調べてまとめる授業では、ここはこういう地形だからこういう建物なのかなとか、地理学的な視点で考えることができます。



平賀：大学では土木学科に入り、授業の中で地形図をみて歴史を考えるといったことが求められましたが、地理オリンピックのおかげで、私はそれが得意な方で良かったです。また、旅行に行っても、この道は昔からあるのかななど、今見ているものの背景を考えながら歩くことができ、その基礎は地理オリンピックを通して学んだことにあると思います。

井上：やったことが活きているのは、私たちスタッフも嬉しいです。

林：最後に、これから地理オリンピックを受験しようとしている女子中高生へメッセージをお願いします。

飯田：地理に限らず科学オリンピックは、男子が多いイメージかもしれません、気負わずに受けてほしいなって思います。世界大会に行くと、4人中全員女子という国もあるので、皆さんにチャレンジしてもらいたいです。女子ならではの視点というのも、大事だと思います。

平賀：気軽に楽しく受けて良いと思います。代表にならなくても、試験を通して身に着けたことをいかして、地理をいかした仕事に携わる人が増えるといいなと思います。

井上：国内選考は、女子の受験者が少ないので、積極的に受験してほしいですね。





テストの様子(京都大会より)



記述式テスト



フィールドワークテスト

現地での景観観察



観察事項をまとめる



現地での課題説明

国際大会では英語で解答します

国際大会では英語で解答します

科学地理オリンピック(国際地理オリンピック)の国内選抜試験で出題された問題を紹介します

マルチメディアテスト(MMT)

第1次選抜試験 問題例



次の写真はトルコの世界遺産パムッカレのものである。この地形の形成について最も適切なものを選べ。

- ①傾斜した地層の差別侵食によりできた
- ②石灰岩でできた地層が溶食されてできた
- ③火山灰が堆積してできた
- ④河川により運ばれてできた土砂が堆積してできた

解答 ②

世界大会開催地に関する問題。白色の地形(カルスト地形)がどのように形成されたかを問うている。

記述式テスト(WRT)

第2次選抜試験 問題例

図1は日本の一級河川Y川の一部における、標高50m間隔の等高線と空中写真を示している。Y川の両岸には遊水池が設けられている。図1で示す場所になぜ遊水池が設けられたのか。自然環境と社会環境に着目して説明しなさい。

解答のポイント

- ・Y川は盆地(谷底平野)を過ぎると狭窄部になる。※Y川下流部の地形の特徴
- ・狭窄部に入りきれない川の水は狭窄部でせき止められ、(盆地南部の)市街地にあふれる可能性があるため。※狭窄部による上流側の市街地の洪水
- ・本流のY川に合流する支流(市街地を東に流れる支流)が増水し(市街地に)あふれる可能性もあるため。※合流部の洪水

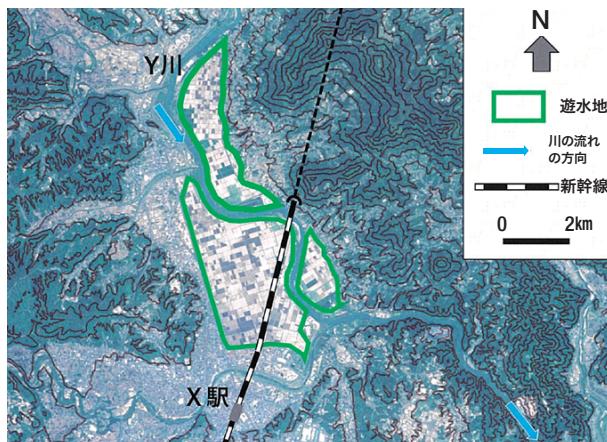


図1 注)新幹線は橋で遊水池を通過するため、新幹線は遊水池の設置とは関係ないものとする。
(Web等高線メーカーにより作成)





2019年8月に香港で行われました

第16回

国際地理オリンピック iGeo Hong Kong 2019

代表生徒・引率教員レポート

世界大会はテストだけではありません。
ポスター・プレゼンテーションや文化交流・エクスカーションなど多彩なプログラムが用意されています。

敷居が高いものだと思わずぜひ地理オリンピックに挑戦してほしいです。パンフレットにこんなことを書くのもどうかと思いますが、私は大の地理好きというわけではありませんでした。しかし他の日本代表や先生方とお話しをさせていただいたり、学校ではなかなかできないフィールドワークをしたりすることで、地理という学問の新たな一面に出会うことができました。そして世界大会では今後の人生につながる貴重な体験をさせていただきました。テストも他の国選手との交流も正直うまくできたとは言えません。しかしながらこそ、世界で通用する人材となるためにこれからもっと勉強やその他の活動を頑張っていこうという決意が生まれました。私にとって地理オリンピックはゴールではなくスタートになったと思っています。

日本代表選手 飯田菜未：茨城県立土浦第一高等学校

僕は中学生の時から何回も地理オリンピックにチャレンジしました。そこで地理オリンピックでしか得ることのできないたくさんの貴重な体験をしました。世界各国の選手のレベルの高さに驚くこともありましたが、地理的な新しい視点で街を見ることができるようになったり、調査した地域の改善点を提言したり、日本の「地理」と海外の「地理」の差を実感したり、大会を通じて全てが一生の記憶に残るものとなりました。楽しさで自分が一番輝けるときでした。地理は文系でもあり、理系でもある学問です。科学オリンピックは理系が多いから、地理は社会科だから、は関係ありません！「輝きたい！」そう思ったら、世界大会への最初の一歩、踏み出してください。

日本代表選手 植山隆斗：早稲田高等学校

"The study of geography is about more than just memorizing places on a map. It's about understanding the complexity of our world, appreciating the diversity of cultures that exists across continents. And in the end, it's about using all that knowledge to help bridge divides and bring people together."

—Barack Obama

これは2019年の国際地理オリンピック香港大会の閉会式の際、タスクフォースメンバーのリーダーの方が私たちに下さった言葉です。日本中の地理を学んでいる高校生へ。あなたは“just memorizing places on a map”で満足ですか？学校で学んでいる地理は、地理の世界のほんの入り口にすぎません。学校という小さな部屋を出て、地理オリンピックの扉を開けてみましょう。「違いを乗り越え、人々を一つにするための地理」、そんな素晴らしい世界があなたを待っています。

日本代表選手 高野広海：渋谷教育学園幕張高等学校

国際地理オリンピックで大会中に行われることはテストだけではなく、遠足や交流イベントなど様々なイベントが目白押しです。そのため選手同士の交流が非常に活発であり、世界各地から集まつた極めて優秀な高校生たちと地理の話や自国のこと、将来の夢などを語り合つたことは私の人生を変えるような出来事でした。地理オリンピックの国内予選では、写真や図が多用されておりクイズのように楽しめる一次試験、様々な資料を用いて事象の原因を探求したりする二次試験、自分で情報をを集め調査地域を分析し考察する三次試験とどれをとっても面白いものばかりです。是非多くの方に受験していただき、受験することでもっと地理が好きに、もっと地理ができるようになってほしいと願っています！

日本代表選手 中尾俊介：洛星高等学校

2020年は新型コロナの流行により
世界大会は残念ながら中止になりました。



各国選手団とともに



表彰式にて

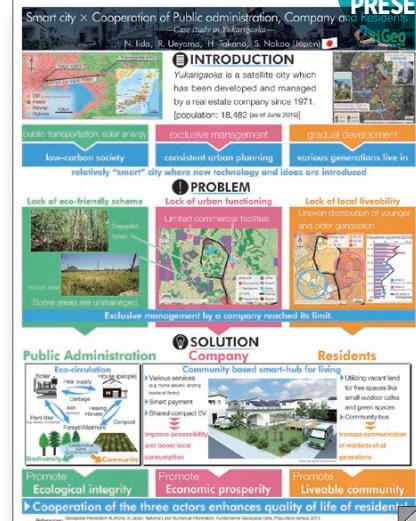


日本のプレゼンの様子



熱氣あふれるポスター発表

POSTER
PRESENTATION



地理オリンピックは世界中から高校生が集まり、地理の技能や思考力などを競います。国際大会では、初めて見るような資料から情報を読み取り、初めて訪れる場所で地域の特徴を読み取るなど、単純に地名や用語などの知識を持っているだけでは好成績は残せません。世界各地から来た地理が好きな高校生との交流を重ねることも大事にしてほしいことの一つです。大会自体は一週間ほどの非常に短い間ですが、三種類のテストにフィールドワーク、ポスター・セッションなど充実したプログラムが用意されています。貴重な経験ができ、新たな世界を見ることができると思います。地理が好きだという人や世界のことを知りたい人はぜひ挑戦してみてください。

日本代表引率教員 井上明日香：神奈川県立川崎高等学校

このパンフレットを手にしている人は、間違いなく地理に興味のある人ですね。あなたは地理のどのようなところに魅かれたのでしょうか。地理オリンピックで優秀な成績を残すには、基本的な知識はもちろん必要です。しかし、それよりも身に付けてきた知識や技能をどう活用するか、活用できるか、大切なのはここです。地理は、現代世界の自然・社会・文化等の多様性を学ぶ科目です。私は日本代表を引率し、彼らの様子を見ていて感じたことがあります。それは、普段の地理の学習が、世界に繋がっていくことを彼らが実感できるのが、地理オリンピックだということです。日々学んでいる地理を、机上に留めておくのは勿体ないです。地理オリンピックの参加者はみな、興味や関心を同じくする仲間たちです。ぜひ地理オリンピックに参加しませんか。

日本代表引率教員 中村光貴：筑波大学附属高等学校